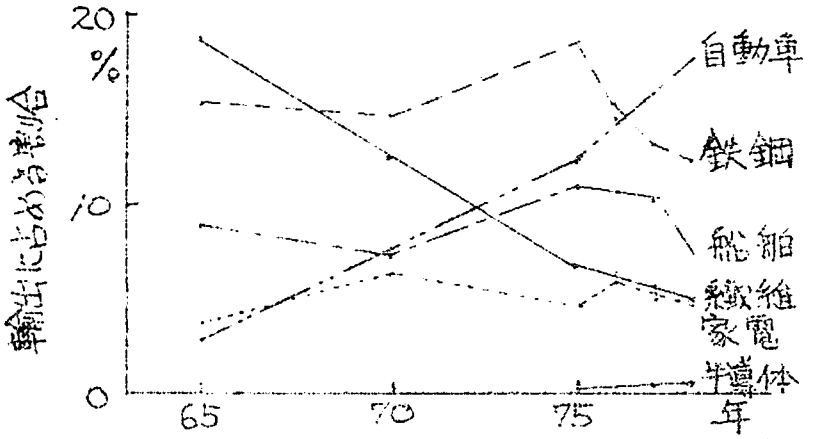
日本経済の高度化　　志賀邦男（すずき野産業大学教授）

1. 輸出構造の変化



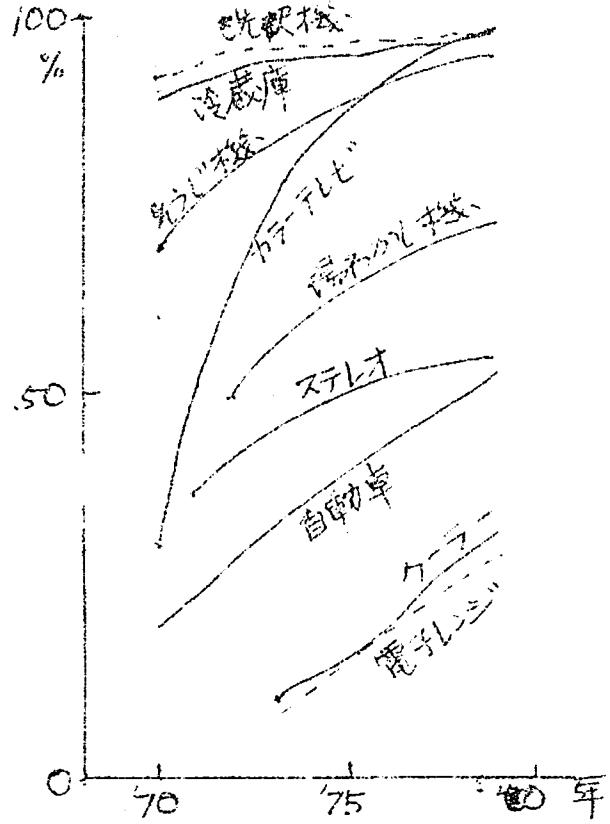
（資料：エコノミスト 1月29日号のデータより著者が作成）

'65年の輸出品の主力は繊維であったが、日米間に繊維紛争が起こり、その後発展途上国の追い上げもあって輸出に占める割合はどんどん低下し、'78年には5%程度にまで下がっている。鉄鋼・船舶・家電などは'70～'75年に増加してきたが、最近では繊維と同様に米国と紛争があり、輸出における割合は徐々に低下してきている。これらに代わって輸出の主力になってきたのは自動車である。'65年にはわずか3.1%だったのが'78年には17.6%にまで増加している。燃費の良い日本の小型車は世界で売れゆきが良いが、輸入国との摩擦も問題になり始めている。

将来日本の輸出の主力になると思われるのは半導体・コンピュータなどのエレクトロニクス製品で、半導体はまだ輸出額の割合が小さいが既に世界のシェアでは米国50%に対し日本は30%を占めている。半導体における日本の技術

は米国と並んでおり、労働力の質の差を考えると日米逆転は必至であり、もう日米半導体戦争は始まっている。

2. 家電製品の普及率



（資料：経済白書 昭和54年版）

洗濯機、冷蔵庫、カラーテレビ、そうじ機などはほぼ100%近くなり、完全普及したと言える。湯わかし機もいずれ完全普及するだろう。ステレオは生活必需品ではないので100%近く普及することはまずあり得ず、最終的に60～70%程度に留まるだろう。自動車も住宅事情や交通混雑などからそれほど普及せず、70%前後となろう。クーラーや電子レンジについてはまだ予想し難い。（了）